

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
広島工業大学 専門学校	昭和59年1月14日	玉 野 和 保	〒733-8533 広島県広島市西区福島町2-1-1 (電話) 082-295-5111			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人鶴学園	昭和32年11月27日	鶴 衛	〒731-5193 広島県広島市佐伯区三宅2-1-1 (電話) 082-921-3121			
目 的	技術革新及び社会の変化に即応した教育内容を実践し、社会のニーズに応えた人材を育成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課 程	建築学科	2年(昼)	1,856単位時間	平成22年文部科学 大臣告示第31号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,152単位時間	0単位時間	0単位時間	768単位時間	0単位時間	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	141人	6人	12人	18人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 定期試験・課題・小テストや、授業態度、また出席状況等を総合的に判定し、科目担当教員が評価。	
長期休み	■学年始め：4月4日 ■夏 季：7月22日～8月31日 ■冬 季：12月23日～翌年1月7日 ■学 年 末：3月18日～4月3日			卒業・進級条件	卒業条件は、学科の定める卒業認定単位数を満たしていること。進級条件は、出席率80%以上、必須科目の単位の取得を原則とし、学科判定会議、学校全体の認定会議で審議。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 出席率不良(80%未満)学生について、個別の状況把握に努め早期対応を行う。長期欠席者に対しては学科長、校長等が本人に対して保護者を交えて生活指導・進路指導を行う。			課外活動	■課外活動の種類 地域ボランティア清掃、広島市グリーンパートナー、みちのく未来基金募金活動等。 ■サークル活動 (有・無)	

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 (株)池下設計, 下岸建設(株), 今井産業(株) 広成建設(株), 積和建設中国(株), (株)カクノ</p> <p>■就職率^{※1} 96.2%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 35.7%</p> <p>(卒業者には建築士専攻科進学者を含む) (平成27年度卒業者に関する平成28年4月時点の情報)</p>	<p>主な資格・検定</p> <p>2級建築施工管理技術検定学科試験 インテリアコーディネーター リビングスタイリスト 福祉住環境コーディネーター</p>
中途退学の現状	<p>■中途退学者 4名 ■中退率3.0%</p> <p>平成27年4月1日在学者 133名 (平成26年4月入学者を含む) 平成28年3月31日在学者 129名 (平成28年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更(就職)、病気療養等。</p> <p>■中退防止のための取組 中途退学は学生本人の生涯に関わる事柄であるため、学科長、校長等が本人に対して保護者を交えて進路指導を行い、中退防止に努めている。</p>	
ホームページ	URL: http://www.hitp.ac.jp/	

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業等と連携し、専門性に関する動向や、求められる専門知識・技術・資格等についての意見や提言等をカリキュラム編成や授業内容・方法等の改善に反映させ、建築業界の現場において、リーダーの資質を持った中堅技術者を育成する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年9月1日現在

名 前	所 属
宮内 秀実	河井建設工業株式会社
平田 圭子	広島工業大学 環境学部 環境デザイン学科

(開催日時)

第1回 平成28年7月19日 15:00～17:30

第2回 平成29年2月24日 15:00～17:30 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

二級建築士やインテリアコーディネーター等の資格取得において要求されている専門的知識や技術・技能と、製図や CAD 等に関する知識や技術・技能を、学生に習得させることができる企業等を選定し、当該企業の建築士を講師とする実践的な授業を展開することとしている。また、評価基準に基づく評価についても、建築学科の学科長と連携できる設計事務所であることとしている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
建築製図Ⅰ, 建築製図Ⅱ	建築製図の基本から応用までを学習し、木造2階建図面の作図力を養う。	株式会社 アトリエドリーム

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員の専門的な知識や技術・技能と学生に対する指導力等の向上を図るため、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会での審議を通じて示された意見や情報等を十分に把握した上で研修等を計画・実施し、教育活動の充実に努めることを基本方針とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年9月1日現在

名 前	所 属
国 貞 和 彦	学校法人広陵学園 広陵高等学校
高 羽 威	一般社団法人 情報産業協会人材開発委員長
木 谷 幸 江	公益財団法人 日本照明家協会
宮 内 秀 実	河井建設工業株式会社
山 本 博	テンパール工業株式会社
大 島 晋 也	広島工業大学専門学校同窓会

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.hitp.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.hitp.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			生き方講座 I	学生が自らの人生をどう豊かにするか、そのためにはどのような職場でどんな仕事に就くのか、それに必要な力をつける学び方について、しっかり考え行動できる力を育成する。	1 前	32	1			○
○			生き方講座 II	学生が自らの人生をどう豊かにするか、そのためにはどのような職場でどんな仕事に就くのか、それに必要な力をつける学び方について、しっかり考え行動できる力を育成する。	1 後	32	1			○
○			生き方講座 III	学生が自らの人生をどう豊かにするか、そのためにはどのような職場でどんな仕事に就くのか、それに必要な力をつける学び方について、しっかり考え行動できる力を育成する。	1 前	32	1			○
○			生き方講座 IV	学生が自らの人生をどう豊かにするか、そのためにはどのような職場でどんな仕事に就くのか、それに必要な力をつける学び方について、しっかり考え行動できる力を育成する。	2 後	32	1			○
○			文章技術	明快で論理的な「レポート」「実習報告書」等の作成能力を育成すると共に、論理的な思考を養う。	1 後	32	2	○		
○			コンピ ュー タ実 習Ⅰ	構造力学など工学的な計算を行うためには、関数電卓は必須のものとなっているため、関数電卓の必要最低限の使用方法について熟知させる。コンピューター(Windows・Word)の基本的な使用方法を習得する。	1 前	32	1			○
○			コンピ ュー タ実 習Ⅱ	構造力学など工学的な計算を行うためには、関数電卓は必須のものとなっているため、関数電卓の必要最低限の使用方法について熟知させる。コンピューター(Windows・Word)の基本的な使用方法を習得する。	1 後	32	1			○
○			建築史Ⅰ	建築が過去においてどの様に考えられ、発達してきたか、その歴史の変遷の流れを正しく理解させ、今日のそして明日の建築を考え創造していく上に必要な基礎的教養を得させる。建築とは何か、どう建てるべきか、どういう建築がいいのか、など、建築家としての批判精神と判断力と表現力。	1 前	32	2	○		

○			建築史Ⅱ	建築が過去においてどの様に考えられ、発達してきたか、その歴史の変遷の流れを正しく理解させ、今日のそして明日の建築を考え創造していく上に必要な基礎的教養を得させる。建築とは何か、どう建てるべきか、どういう建築がいいのか、など、建築家としての批判精神と判断力と表現力。	1 後	32	2	○		
○			建築計画Ⅰ	建築を学ぶ学生に、建築学の中における建築計画という科目の位置づけを把握させ、又、それをいかに活用すると良いかを講述するものである。建築計画という科目は性格上、単一の科目として講述することが難しいため、あえて他の建築学の科目の様々なエッセンスを取り入れながら講義を進めてゆくものとする。	1 前	32	2	○		
○			建築計画Ⅱ	建築を学ぶ学生に、建築学の中における建築計画という科目の位置づけを把握させ、又、それをいかに活用すると良いかを講述するものである。建築計画という科目は性格上、単一の科目として講述することが難しいため、あえて他の建築学の科目の様々なエッセンスを取り入れながら講義を進めてゆくものとする。	1 後	32	2	○		
○			環境工学Ⅰ	建築空間を快適で健康的なものにするため、屋外環境、屋内環境の基礎を学ぶ。環境工学Ⅰでは、屋外の熱環境、屋内の湿気について身近な実例を交えながら学習する。	1 前	32	2	○		
○			環境工学Ⅱ	建築空間を快適で健康的なものにするため、屋外環境、屋内環境の基礎を学ぶ。環境工学Ⅰでは、屋外の熱環境、屋内の湿気について身近な実例を交えながら学習する。	1 後	32	2	○		
○			建築設備Ⅰ	給排水・衛生・給湯・浄化槽・消火設備・空調和等の基礎・応用及びそのシステム・工法を学ぶ。	2 前	32	2	○		
○			建築設備Ⅱ	給排水・衛生・給湯・浄化槽・消火設備・空調和等の基礎・応用及びそのシステム・工法を学ぶ。	2 後	32	2	○		
○			建築法規Ⅰ	法規はたえず改正されるものであり、常に最新のものを追いかけていかなければならない。したがって、建築法規の授業では建築士試験にも持ち込み可能な「基本建築関係法令集」を教科書として用い、実際に条文を読むことにより辞書を引くように法令集に慣れ、自分で解釈する能力を身につけることを目的とする。また、「建築法規用教材」を副読本に用い、難解な法令集の条文を図解で理解を深める。	1 前	32	2	○		
○			建築法規Ⅱ	法規はたえず改正されるものであり、常に最新のものを追いかけていかなければならない。したがって、建築法規の授業では建築士試験にも持ち込み可能な「基本建築関係法令集」を教科書として用い、実際に条文を読むことにより辞書を引くように法令集に慣れ、自分で解釈する能力を身につける	1 後	32	2	○		

				ことを目的とする。また、「建築法規用教材」を副読本に用い、難解な法令集の条文を図解で理解を深める。					
○			建築法規Ⅲ	法規はたえず改正されるものであり、常に最新のもの追いかけなければならない。したがって、建築法規の授業では建築士試験にも持ち込み可能な「基本建築関係法令集」を教科書として用い、実際に条文を読むことにより辞書を引くように法令集に慣れ、自分で解釈する能力を身につけることを目的とする。また、「建築法規用教材」を副読本に用い、難解な法令集の条文を図解で理解を深める。	2 前	32	2	○	
○			建築法規Ⅳ	法規はたえず改正されるものであり、常に最新のもの追いかけなければならない。したがって、建築法規の授業では建築士試験にも持ち込み可能な「基本建築関係法令集」を教科書として用い、実際に条文を読むことにより辞書を引くように法令集に慣れ、自分で解釈する能力を身につけることを目的とする。また、「建築法規用教材」を副読本に用い、難解な法令集の条文を図解で理解を深める。	2 後	32	2	○	
○			構造力学Ⅰ	建築構造設計における構造力学の役割を明らかにし、静力学の基礎的知識とその計算方法の修得を目的とする。	1 前	32	2	○	
○			構造力学Ⅱ	建築構造設計における構造力学の役割を明らかにし、静力学の基礎的知識とその計算方法の修得を目的とする。	1 後	32	2	○	
○			構造力学Ⅲ	構造力学は建築構造の基礎となるものであり、その知識を充分習得できるよう指導する。構造力学は、鋼構造や鉄筋コンクリート構造と同じ内容となる部分も多く、両科目を有効的に活用して、より知識の習得ができるよう考慮する。	2 前	32	2	○	
○			構造力学Ⅳ	構造力学は建築構造の基礎となるものであり、その知識を充分習得できるよう指導する。構造力学は、鋼構造や鉄筋コンクリート構造と同じ内容となる部分も多く、両科目を有効的に活用して、より知識の習得ができるよう考慮する。	2 後	32	2	○	
○			木質構造Ⅰ	木構造の建築物に働く種々の力、各種建築材料の特性などを理解させると共に、木構造建築物の構造を理解させ、実際に活用できる構造図作成の能力を養う。	1 前	32	2	○	
○			木質構造Ⅱ	木構造の建築物に働く種々の力、各種建築材料の特性などを理解させると共に、木構造建築物の構造を理解させ、実際に活用できる構造図作成の能力を養う。	1 後	32	2	○	

	○		鋼構造 I	鋼構造の技術・知識を充分習得できるよう指導する。さらに発展を目指すためには、建築基準法における構造規定及び学会の“鋼構造設計規準”に定められている内容を理解し、知識として必要であるから後述するテキストを用い、随時他の文献等も引用しながら、構造設計実務の経験を交えつつ講義を進める。	2 前	32	2	○		
	○		鋼構造 II	鋼構造の技術・知識を充分習得できるよう指導する。さらに発展を目指すためには、建築基準法における構造規定及び学会の“鋼構造設計規準”に定められている内容を理解し、知識として必要であるから後述するテキストを用い、随時他の文献等も引用しながら、構造設計実務の経験を交えつつ講義を進める。	2 後	32	2	○		
	○		鉄筋コンクリート構造 I	鉄筋コンクリート建築の構造計算の基礎的技術を理解させるとともに、社会人として実務に役立つ知識の習得を目指す。	2 前	32	2	○		
	○		鉄筋コンクリート構造 II	鉄筋コンクリート建築の構造計算の基礎的技術を理解させるとともに、社会人として実務に役立つ知識の習得を目指す。	2 後	32	2	○		
○			建築材料 I	建築に使用される材料の種類と性質の基礎知識を理解し、「適材適所」に使い分けが出来る学力を養成する。建築材料の一般的事項、特徴及び性質、施工方法との関わりを理解させる。建築材料の面から見た建築の歴史及び将来のあり方を学習する。	1 前	32	2	○		
○			建築材料 II	建築に使用される材料の種類と性質の基礎知識を理解し、「適材適所」に使い分けが出来る学力を養成する。建築材料の一般的事項、特徴及び性質、施工方法との関わりを理解させる。建築材料の面から見た建築の歴史及び将来のあり方を学習する。	1 後	32	2	○		
○			建築施工 I	契約から竣工引渡しまでの建築生産過程において、さまざまな条件に対して、建築物を造り上げるための工法技法及び生産管理技術、積算の基礎知識を修得させる。	2 前	32	2	○		
○			建築施工 II	契約から竣工引渡しまでの建築生産過程において、さまざまな条件に対して、建築物を造り上げるための工法技法及び生産管理技術、積算の基礎知識を修得させる。	2 後	32	2	○		
○			建築製図 I	まず建築における専門用語の意味を理解する。建築ではさまざまな図面で建物を表現し実務に使える図面に対応する木造の製図方法の基本を習得する。また、作図の基本を理解し、教科書の図面をトレースする技術を習得する事を目標とする。	1 前	64	3	△		○

○			建築製図Ⅱ	まず建築における専門用語の意味を理解する。建築ではさまざまな図面で建物を表現し実務に使える図面に対応する木造の製図方法の基本を習得する。また、作図の基本を理解し、教科書の図面をトレースする技術を習得する事を目標とする。	1 後	64	3	△	○
○			建築設計製 図Ⅰ	設計製図に関する規約及び建築の専門分野の製図について基礎的、基本的な知識と技術を習得させ、設計図、製作図等を正確に読み、かつ図面を構想し作成する能力と態度を育成する。	2 前	128	5	△	○
○			建築設計製 図Ⅱ	設計製図に関する規約及び建築の専門分野の製図について基礎的、基本的な知識と技術を習得させ、設計図、製作図等を正確に読み、かつ図面を構想し作成する能力と態度を育成する。	2 後	128	5	△	○
○			建築材料実 験Ⅰ	技術の基本を理解するには、基礎知識だけでは十分とは言えず、その裏付となる実験は絶対に必要である。この授業では、金属材料及びコンクリート材料の性質を調べる基本的な実験を行い、材料の性質に関する基礎知識を体験的に学習する。また、この実習を通して実験の心構え、機器の取り扱い、データのまとめ方やレポートの書き方を身に付けさせる。	2 前	32	1		○
○			建築材料実 験Ⅱ	技術の基本を理解するには、基礎知識だけでは十分とは言えず、その裏付となる実験は絶対に必要である。この授業では、金属材料及びコンクリート材料の性質を調べる基本的な実験を行い、材料の性質に関する基礎知識を体験的に学習する。また、この実習を通して実験の心構え、機器の取り扱い、データのまとめ方やレポートの書き方を身に付けさせる。	2 後	32	1		○
○			建築測量実 習Ⅰ	建築士としてやり方に必要な水準測量及び多角測量の技能を修得する。	1 前	32	1		○
○			建築測量実 習Ⅱ	建築士としてやり方に必要な水準測量及び多角測量の技能を修得する。	1 後	32	1		○
○			建築 CADⅠ	AutoCAD の操作方法を学びながら、CAD とはどんなものか、同時に、建築 CAD 図の描き方を習得し、建築デザインの素養を身につける。CAD コマンドの習得、CAD の周辺機器についての知識、CAD 図面の扱い方、建築業界での CAD の位置づけ等を学ぶ。	1 前	64	3	△	○
○			建築 CADⅡ	AutoCAD の操作方法を学びながら、CAD とはどんなものか、同時に、建築 CAD 図の描き方を習得し、建築デザインの素養を身につける。CAD コマンドの習得、CAD の周辺機器についての知識、CAD 図面の扱い方、建築業界での CAD の位置づけ等を学ぶ。	1 後	64	3	△	○

	○		CAD 設計 I	JW_CAD for Windows の習得。	2 前	64	3	△		○
	○		CAD 設計 II	JW_CAD for Windows の習得。	2 後	64	3	△		○
	○		建築デザイン・パース I	色の基本と絵具による混色を理解し、パーステクニックを練習していく。透明水彩絵具に慣れ、溝引き、配色の経験を重ねる事によって、簡単な着彩パースを描く力をつける事を目標とする。	1 前	32	1			○
	○		建築デザイン・パース II	色の基本と絵具による混色を理解し、パーステクニックを練習していく。透明水彩絵具に慣れ、溝引き、配色の経験を重ねる事によって、簡単な着彩パースを描く力をつける事を目標とする。	1 後	32	1			○
	○		インテリアデザイン学 I	住まい人の趣味・嗜好等の要望に応えるために、インテリアに必要な基本的な要素を学習しながら、インテリアとは何かについて学んでいく。	2 前	32	2	○		
	○		インテリアデザイン学 II	住まい人の趣味・嗜好等の要望に応えるために、インテリアに必要な基本的な要素を学習しながら、インテリアとは何かについて学んでいく。	2 後	32	2	○		
合計					49 科目	1952 単位時間 (98 単位)		